



This is our Communication on Progress
in implementing the principles of the
United Nations Global Compact.

We welcome feedback on its contents.

株式会社
良品計画

株式会社 良品計画
Ryohin Keikaku Co.,Ltd.(MUJI)

2017 Communication on Progress

対象期間: 2016年9月～2017年9月

当社は、国連の提唱する人権、労働、環境及び腐敗防止に関する普遍的原則を進める『国連グローバル・コンパクト』に、2013年9月から参加しています。社内・外における積極的なCSR活動の取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

2017年9月13日

代表取締役社長

松崎 暁

内容について詳しくは、当社ホームページ内「100の良いこと」(<https://ryohin-keikaku.jp/csr/list/>)に記載をしております。

人権分野に関する活動報告

<p>Cafe&Meal MUJIで寄付金付きメニューの提供</p> <p>世界の食料問題の解決に取り組む、日本発の特定非営利活動法人TABLE FOR TWO Internationalの「TABLE FOR TWOプログラム」を、国内のCafe&Meal MUJIなど全店のメニューの一部に導入し、寄付金付きヘルシーメニューをご提供しています。TABLE FOR TWO プログラムとは、私たちが社員食堂や店舗などで、TFT対象となるカロリーを抑えたヘルシーメニューを購入すると、代金に含まれる20円が寄付金となります。TABLE FOR TWO プログラムに参加いただく方は対象となるヘルシーな食事を摂ることで健康管理につながり、一方ではこの20円という金額は学校給食1食分と同等の価値があり、この寄付によってアフリカの子供たちに温かい給食が届けられるという双方にメリットのある取り組みです。TABLE FOR TWO の取り組みについて: http://www.muji.net/cafemeal/news/news/021217.html</p>	<p>世界の食料問題の解決に取り組む、日本発の特定非営利活動法人TABLE FOR TWO Internationalの「TABLE FOR TWOプログラム」を、国内のCafe&Meal MUJIなど全店のメニューの一部に導入しています。2016年10月には世界食糧デーキャンペーンにも参加し、2016年3月から2017年2月までで16,805食を販売しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
---	--	----------------------

労働に関する活動報告

<p>キルギス、ケニア、カンボジア地域での商品開発プロジェクト 独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency、以下JICA）が発展途上国で支援している一村一品運動に賛同し、JICAとの共同企画商品を展開しています。キルギスのフェルトを使った商品、ケニアのソーブストーンのように、地域の特産物を活かした住民による地域活性化を目指した取り組みです。</p>	<p>これまではXmas時期のギフト商材としての商品開発を行っていましたが、2013年度からは「年間定番として販売できる企画」にレベルアップさせるため、商品デザインの変更に取り組み、クッションなどを製品化いたしました。2017年度の発注金額は約1,750万円で、前年度よりも約70%増加しています。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p>障がい者雇用 障がい者雇用の推進に努め、2010年10月、社団法人東京都雇用開発協会から、障がい者雇用促進優良企業として表彰をうけました。</p>	<p>2009年からスタートしたハートフルプロジェクトは販売部と連動して店舗数および障がい者数の拡大を継続しています。2009年に1.44%だった雇用率は、2017年2月現在で4.09%となり、295名の方が店舗や本部で「働く仲間」として活躍しています。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p>ドイトウン開発プロジェクト タイ・ミャンマー・ラオスの国境をまたぐ山岳地帯の地域ドイトウンにおいて生活する少数民族の、貧困問題の解決と麻薬撲滅を目的とした「ドイトウン開発プロジェクト」に賛同し、このブランドのコーヒー豆を、飲食事業「Café&MealMUJI」で積極的に使用します。</p>	<p>2014年よりこのコーヒー豆を使用し、店舗の拡大とともに使用料も増加させています。2016年度は約3トンを使用しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します。 また、飲食事業での使用以外にも商品として販売をします。</p>

環境に関する活動報告

<p>デザインによる問題解決 サイズやモジュールを統一することで、生活や目的の変化に対応し、商品の長期使用を可能にしています。消耗部分が取り替えられ、商品を永く使い続けられます。</p>	<p>納品形態のアソート箱サイズ統一などの物流効率アップにおける環境負荷軽減や、モジュール化されたシェルフのオプションバリエーションを追加、用途の幅を拡大し、広くたくさんの方々に使用いただいています。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p>素材、工程の点検 再生素材、捨てられるもの、残反・残糸など、資源をムダにしない素材を採用しています。</p>	<p>2014年10月より、「POOL」という名称で、ものづくりの過程で発生するハギレや端材、流通の過程で発生するキズ・汚れ等で販売できなくなった商品をためておき、様々な企業・クリエイターとつながりながら、新たな価値のある商品に再生させて販売しています。第一回のハギレとハギレを組み合わせたスツールカバーは全国で489点を販売しました。その後、残反を使ったハンカチや、製造工程で傷がついてしまった食器に障がい者施設で絵を描いていただいた白磁シリーズなど、新たな商品も生み出しています。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p>包装の簡略化 できるだけ包装をしない販売を目指します。包装が必要な場合も最小限の包装となる努力をします。</p>	<p>衣服・雑貨では納品形態の個包装廃止による環境負荷軽減（2014年～本格稼働）を目指しています。食品では包装を簡略化しているレトルト食品の売上が大幅伸長しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>

環境に関する活動報告

<p>繊維製品のリサイクル 2010年からスタートしたFUKU-FUKUプロジェクトは、繊維製品をバイオエタノールとして再生する新しい技術を中心に、衣料品の100%リサイクルをめざし発足した企業連携のプロジェクトです。</p>	<p>FUKU-FUKUプロジェクトは継続して取り組んでおり、2016年4月～2017年3月で約15.8トンの繊維製品の回収をいたしました。 2015年3月からは、FUKU-FUKUプロジェクトで回収した衣料のうち、まだ着ることのできるものを染め直して再度販売する「ReMUJI」を実施、2015年9月からは、流通の過程で販売することのできなくなったものについても対象としました。全国の無印良品約10店舗で、2016年9月から2017年8月までに約12,500枚を販売しています。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p>プラスチック製品のリサイクル 無印良品は、環境省が実施するプラスチック製品の店頭回収による・リサイクルの実証事業「PLA-PLUS(プラプラ)プロジェクト」にスタート当初より参加しています。</p>	<p>第6回目の「PLAS-PLUSプロジェクト」が、新たにショッピングセンターでのイベントなど回収拠点を拡大して行われました。当社でも2017年1月20日から3月5日まで全国328店舗に拠点を拡大して実施、無印良品のプラスチック製品を回収対象といたしました。</p>	<p>次回も開催される場合には参加する予定です。</p>

腐敗防止に関する活動報告

<p>お取引先様とのパートナーシップ 製造委託取引先様には、良品計画の企業行動を理解し、継続して実践していただくために、「良品計画の環境・労働・安全マネジメント」を製造委託契約書に包含しています。実施の確認は、全社に対して毎年1回、アンケート形式で行い、結果は同じく全社が集まる「取引先集会」の場で報告し、実態の共有をしています。</p>	<p>2015年6月に、お取引先の方々と公平で良好な関係を維持するために、＜良品計画が守る7ヶ条＞を宣言し、時間を守る、約束を守るといった当然の約束事を明文化しました。また商談の際にそれが守られていたかを無記名で評価していただくアンケートへの回答にご協力をいただき、自らにフィードバックをしています。2016年9月～2017年8月のアンケート回答数は141件となっています。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
--	---	----------------------

その他の活動報告

- ・社外清掃 2008年2月より、本社社員の有志による本社ビル周辺の清掃を月に1度実施しています
- ・キッズサマーキャンプでの社員ボランティア 毎年、無印良品津南キャンプ場で開催している「キッズサマーキャンプ」に本社社員がボランティアとして参加し、子どもたちの食事の準備などをお手伝いしています。
- ・棚田トラスト 高齢化に伴い維持管理が困難になっていた棚田の保全のために、WEB上で参加者を募り、田植え・草取り・稲刈りなどの農業体験イベントを行っています。

グローバル・コンパクトのウェブサイトに掲載する。

以上